

第3章 成田市の生涯学習について

第1節 成田市の生涯学習の現状と課題

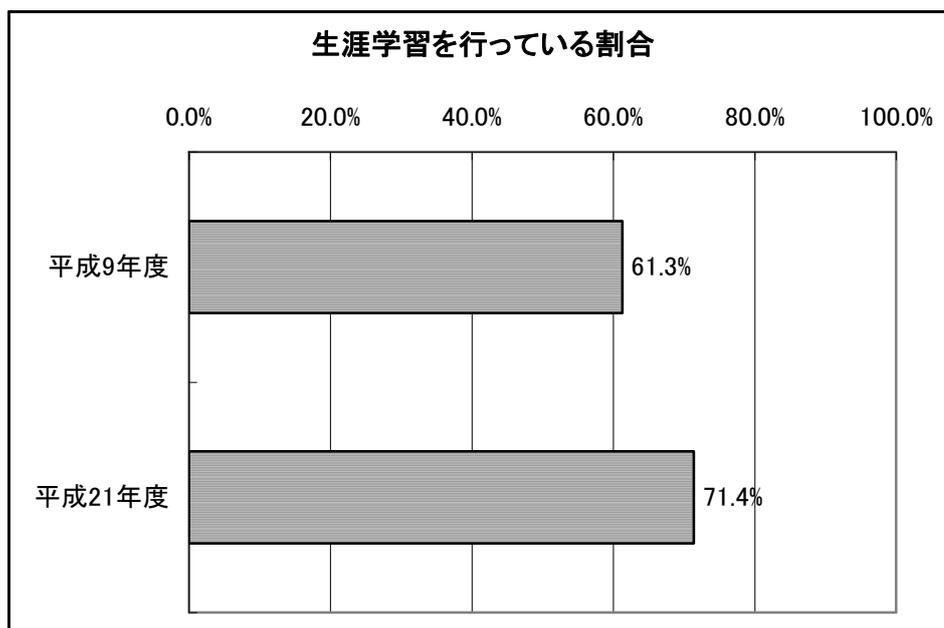
市民を対象としたアンケートをもとにして、本市における生涯学習活動についての現状と課題を「だれもが」「いろいろな」「みんなで」という3つの視点に分けて整理します。

◆だれもが

市民の「生涯学習活動を行っている割合」は71.4%となっており、策定時（平成9年3月）の割合である61.3%より10.1ポイント高くなっています。

これは、市民に生涯学習が浸透していることを示しており、今後も引き続き「生涯学習活動を行っている割合」を上げていく必要があります。

生涯学習を子どもから高齢者までの「だれもが」行い、市民「だれもが」実践していくことで、心豊かでいきいきとした生活を送ることが可能になると考えられます。

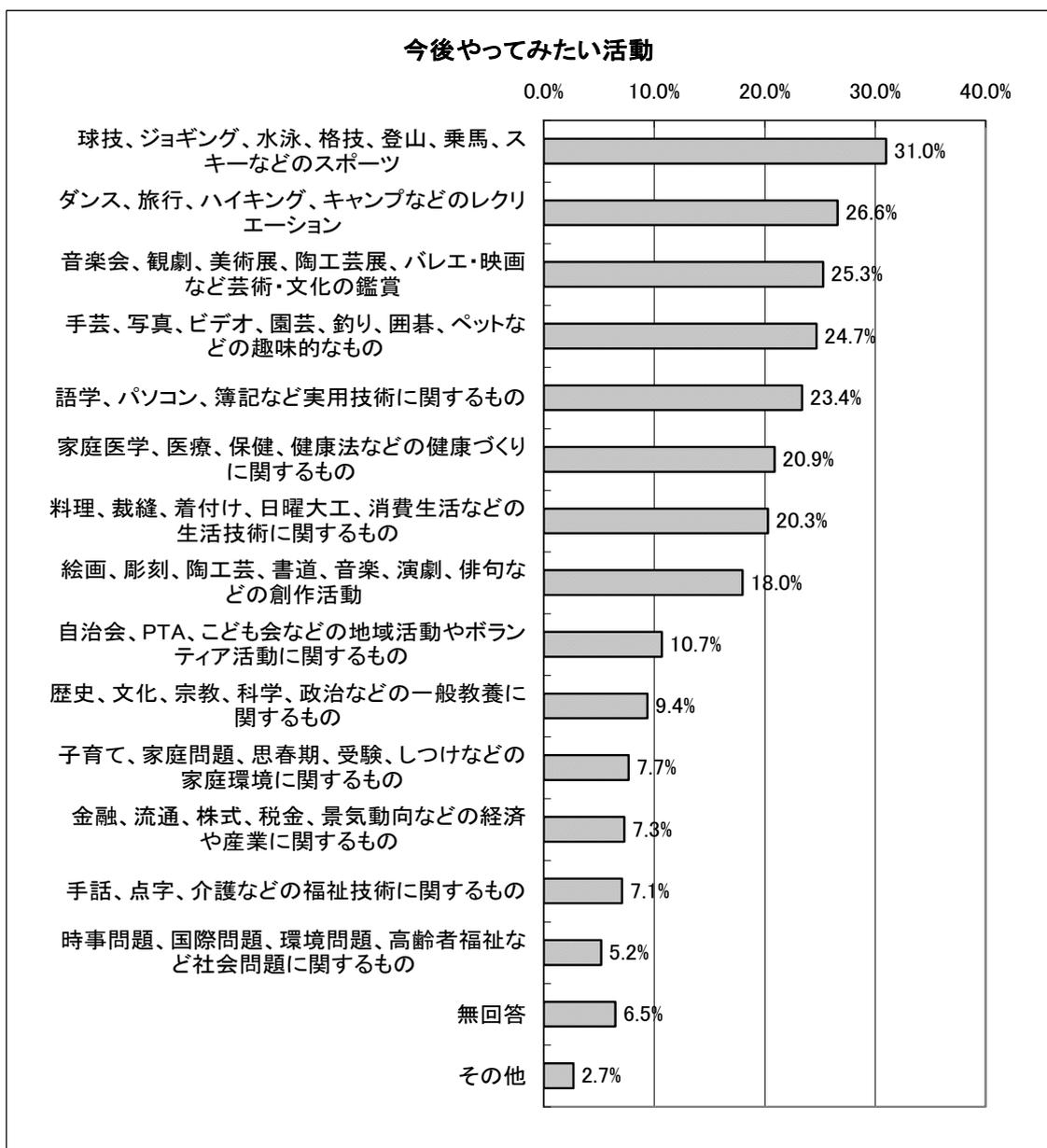


※資料は、平成21年度成田市市民意識調査報告書より

◆いろいろな

「今後やってみたい活動」としては、「球技・ジョギング・水泳・格技・登山・乗馬・スキーなどのスポーツ」が31.0%と最も高く、そのほか「ダンス・旅行・ハイキング・キャンプなどのレクリエーション」が26.6%、「音楽会・観劇・美術展・陶工芸展・バレエ・映画など芸術・文化の鑑賞」が25.3%と、その内容は多岐にわたっています。

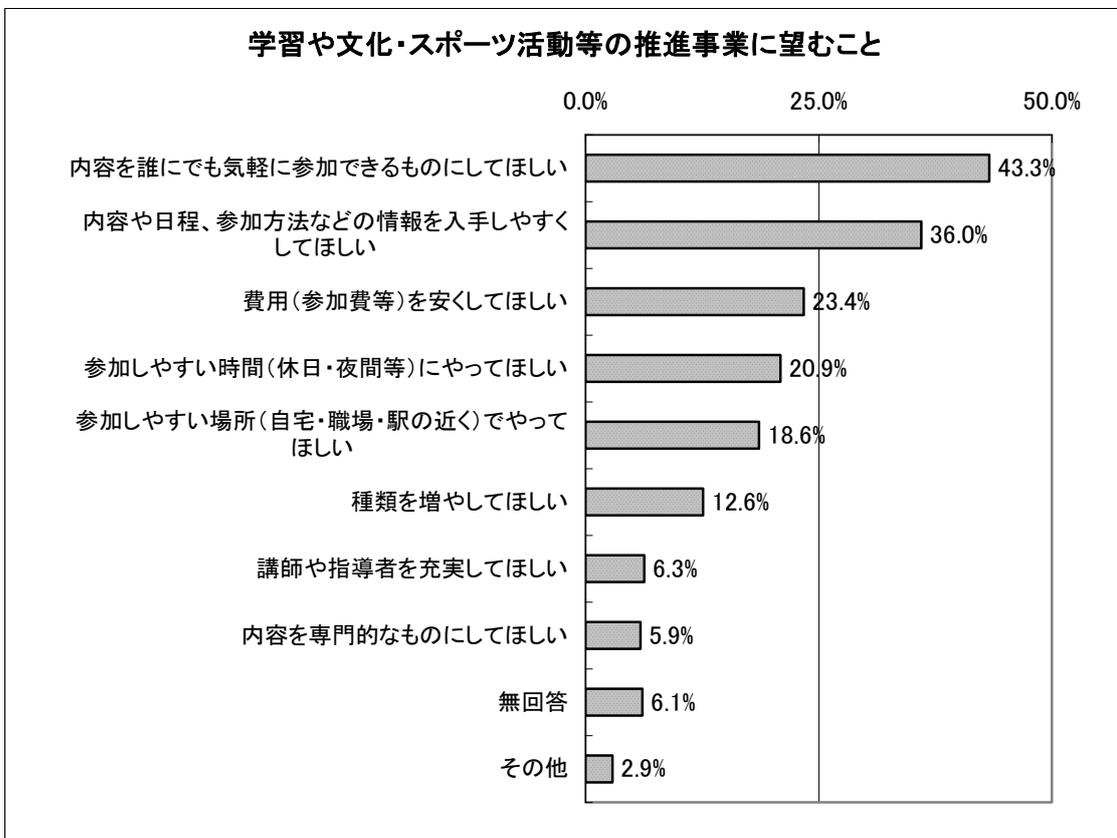
趣味の領域だけではなく、実用技術や生活技術に関する活動や健康づくりに関する活動も上位になっており、さまざまな活動への意欲がうかがわれます。



※資料は、成田市民の生涯学習・生涯スポーツに関する意識調査報告書より

また、「学習や文化・スポーツ活動等の推進事業に望むこと」としては「内容を誰にでも気軽に参加できるものにしてほしい」という意見が43.3%と最も多く、次いで「内容や日程、参加方法などの情報を入手しやすくしてほしい」の36.0%となっています。

これらの結果からも市民は「いろいろな」学習やスポーツに取り組む意欲が強く、また誰でも気軽に参加できるものを望んでいます。市民の生涯学習への意欲を満たすための受け皿として学習施設や情報環境を整備することが求められています。

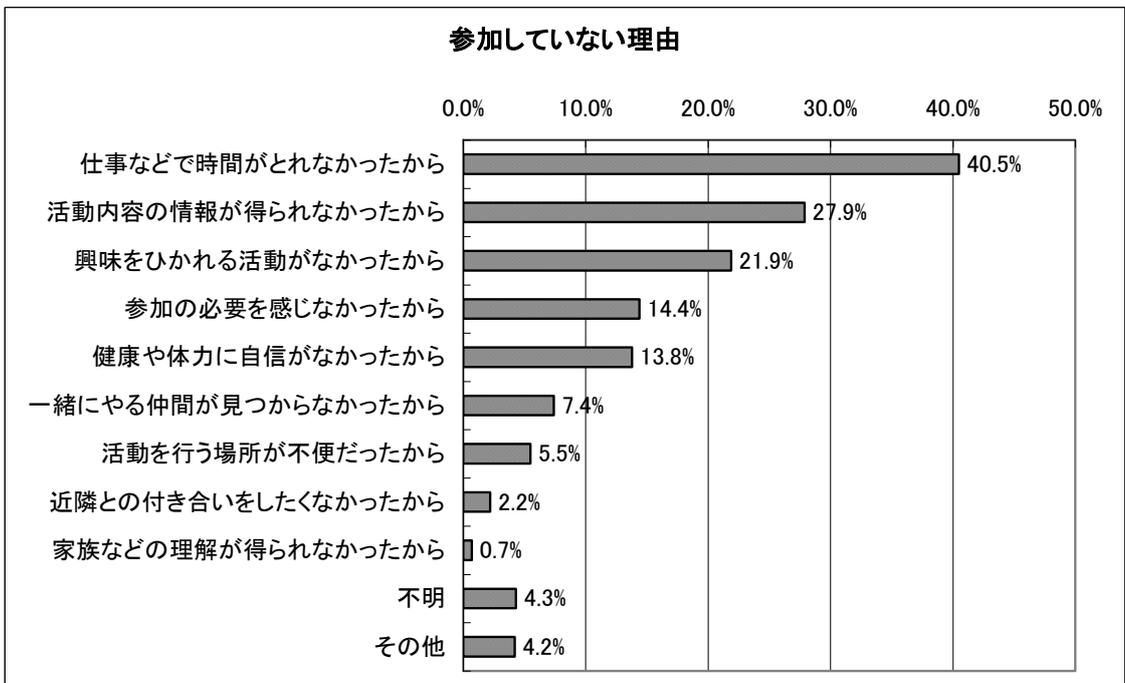
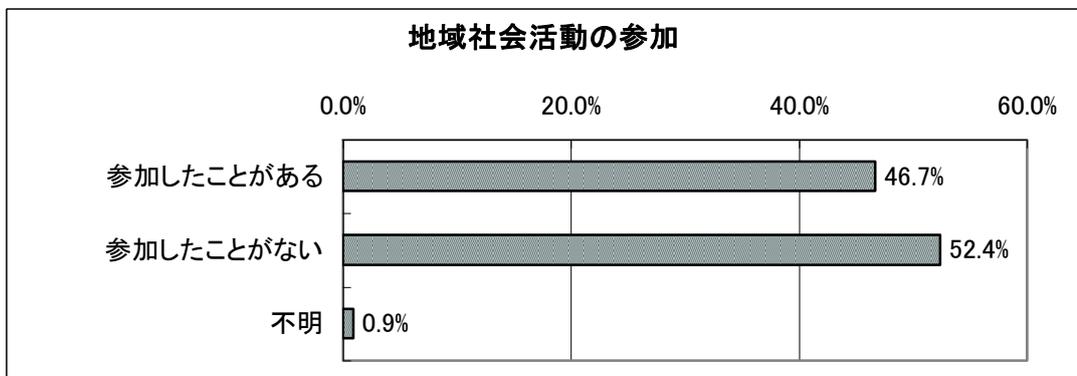


※資料は、成田市民の生涯学習・生涯スポーツに関する意識調査報告書より

◆みんなで

「地域社会活動の参加」については、半数以上の市民が参加していないという結果となりました。その理由は「仕事などで時間がとれなかったから」の40.5%に次いで、「活動内容の情報が得られなかったから」が27.9%と多く、情報不足により地域活動に参加していないという結果となっています。

地域での活動を活発化させていくためには、さまざまな媒体で市民に情報を提供し、誰でも参加しやすい体制をつくっていくことが課題であると考えられます。



※資料は、平成21年度成田市市民意識調査報告書より

第2節 成田市の地域特性

計画策定の視点として、次の3つの本市の特性を活かして、具体的な施策や事業を推進します。

(1) 国際性豊かな市民

本市には、海外との玄関口である成田国際空港が立地しており、多くの外国人の姿を街なかで見かけます。居住人口の2.6%にあたる3,301人（平成21年度末）の外国人登録者がいるほか、外国人の宿泊者も年間110万人を数えます。

このような国際性豊かな地域特性を活かし、お互いの交流を通じて世界の文化を学びあうことができるような生涯学習を推進します。

(2) 豊かな自然環境

本市は、印旛沼や利根川、根木名川などの豊かな自然環境に恵まれています。また、土地利用の状況を見ると、山林・原野・池・沼の面積をあわせて47.28k㎡となっており、市域全体の約2割を占めています。

このような、豊かな自然に親しみながら、市民がいきいきと楽しく取り組んでいけるような生涯学習を推進します。

(3) 生活に根ざした歴史性

本市には、天慶3年（西暦940年）の開山から現在まで不動信仰の場として知られる成田山新勝寺や「義民・佐倉宗吾」ゆかりの宗吾霊堂があります。「門前町」として、「国際空港のあるまち」として、年間に1,300万人を超える観光客を迎えています。

また、平成18年3月に旧下総町及び旧大栄町との合併により人口約12万人の新しい成田市が誕生しました。田園地帯と滑川観音、小御門神社（旧下総町）、大慈恩寺（旧大栄町）などの歴史的資源がこの地域の特徴で、良好な自然環境の中に集落が分散しています。

古くから門前町として栄えてきた本市は、今でもその面影を随所に残し、生活の中にも豊かな歴史の営みが受け継がれていることから、それらの歴史性を取り入れた生涯学習を推進します。

第3節 成田市における生涯学習の将来像

本計画の目標年である平成32年（西暦2020年）には、次のように生涯学習が浸透した社会の実現を目指します。

◆だれもが

- 児童・生徒が、学校で自らテーマを決めて学習したり、部活動や地域のクラブで一生懸命スポーツに励んでいます。
- 国際文化会館の建て替えが完成し、様々なイベントやコンサートが開催され、多くの市民が楽しんでいます。
- 総合型地域スポーツクラブが設立され、スポーツを通じて世代間、地域の交流が活発になっています。

◆いろいろな

- さまざまな媒体から学習に関する情報が得られ、いつでも自分に必要な学習を自由に選択し、自分の希望する方法で学習を行っています。
- 新たな生涯学習複合施設において、趣味や実用の講座だけでなく、大学の講師等による専門性の高い学習を行うことができる環境が整っています。
- 印旛沼や利根川、根木名川、坂田ヶ池など、豊かな自然のなかで、子どもたちが自然体験活動を通して環境について学んでいます。
- 市民ギャラリーやコミュニティセンターで開催されるイベントに多くの市民が参加し、芸術・文化に親しんでいます。

◆みんなが

- 地域住民の主催により公民館等で伝統文化や文化財などの展示会が開催され、身近な場所でまちへの愛着を深めています。
- 学校・家庭・地域が連携し、地域全体で、子どもたちの健全な成長を支えています。
- 友好・姉妹都市との交流や世界的な視野を広げる国際理解教育が行われています。